

卒業生の声 (平成26年度)



門脇 英紀 (土浦五中出身)

平成26年度卒業 立命館大学経営学部経営学科へ進学

私は、水戸商業高等学校に入学したときから、全商9冠(全種目合格)を目指そうと考えてきました。検定資格を取得することによって、自信や強みにもなると考えたのがきっかけです。

そして、3年生の1月にプログラミングに合格し、目標を達成することができました。私が取得した検定の中で一番苦労した検定は、英語検定です。普通科の高校と比較すると英語の授業が少ないこともあり、単語や熟語を覚えることに必死でした。また、リスニングも慣れるまで毎日聴くように心がけて勉強していました。

検定試験は、もちろん合格することも大切だと思いますが、落ちたとしても、何が悪かったのかなど自分を見つめ直すことができるので、チャレンジ精神が養えると感じました。

自分が9冠を達成できたのは、自分を支えてくれた周囲の人達のおかげです。全ての検定において、友達と切磋琢磨し、お互いを高めてきました。

そして、何より夜遅くまでプリントや課外などと言った、勉強ができる環境を作っていただいた先生方への感謝の気持ちでいっぱいです。高校生活は、ほとんど検定試験に追われる日々でした。

大学に進学し、良かったことは、商業教育を学んでいただけあって、企業に関する講義の内容を復習する形で受けられる点です。また、大学で簿記を始める人も多く、全商・日商簿記の知識を持っているのは大きな強みになっています。

佐藤 捺江 (太田南中出身)

平成26年度卒業 県内計理事務所へ就職

水商での高校生活はとても充実したものでした。また私の中で将来を決める転機となった3年間でした。水商では文武両道を掲げ、生徒の多くが部活動に励んでいます。私は珠算部に所属していました。3年生のときに県大会で3位、全国大会では佳良賞に入賞を果たしました。3年間の部活動を通して部員のみんなと高い目標に向かって切磋琢磨し、精神的に大きく成長することが出来たと思います。

授業では簿記や情報処理などの様々な商業科目について学びました。特に資格取得に向けての勉強ではクラスが一丸となって同じ目標に向かって取り組む雰囲気や、熱心に指導して下さる先生方のおかげで多くの検定に合格することが出来ました。向上心を持って頑張る生徒達に対して積極的に後押しやサポートをしてくれる、そのような水商の環境で学ぶことが出来て良かったと思っています。

私が計理事務所への就職を決めたのも、水商で学んだことを活かして、簿記にかかわる仕事がしたいと考えたからでした。私は水商でたくさんの人に出会い、貴重な経験やかけがえのないものを得る事が出来ました。高校生活で得たものはこれからの生活にきっと役立てる事が出来るはずだと思っています。